

川村義肢株式会社様の工場見学に行ってきました！

Introduction

義肢・装具業界のリーディングカンパニー川村義肢株式会社
国内最大の義肢・装具工場の現場見学を通じ、
「ものづくり」を行う上で学んだことをご紹介します。

川村義肢株式会社について

創業1946年12月1日、肢装具業界のリーディングカンパニーとして、高度な機構と質感を持つ義肢をオーダーメイドにて製作されており、人工皮膚や人工乳房などの高品質な装具の製作はもちろん、自立支援用品の製造、開発なども手掛けられています。

また、ウミガメなど動物用義肢も可能であれば製作されています。大阪府大東市御領1-12-1に本社工場があり、JR住道駅からシャトルバスが出ています。工場見学やショールームなど、詳しくは下記ホームページをご覧ください。 <http://kawamura-gishi.co.jp>



究極のワンオフ

義肢を作る上で大切な点が、**接合部の作りこみ**。使用頻度にもよりますが、2-3年ごとに作り換えの必要があるそうです。最新の製造技術を用い、日々その品質は向上しています。

使用場面も非常に重要な要素で、オリンピック用のものから温泉で使用するためなど、日常生活から競技用まで、使用者にマッチする**究極の一品**が日々製作されています。



ふりかえり

今回の工場見学では広報の方に説明していただきながら、各製造工程を周りました。義肢・義足の製造に関わる社員の皆様の真摯な姿勢が印象的でした。「**ユーザー様に完璧に適合する品をつくる。その一方で、短納期化や製造作業の効率を上げる工夫を常に行う。**」と話しておられ、つくるものは違えど、自分が行っている仕事を良くするヒントになったと思います。



社長濱井と営業担当片岡が
訪問しました！

最後に、工場内を見学中、特に印象に残ったものについて紹介させていただきます。

石膏で足型をとる際、製品を見れば作業の進捗がどのような段階にあるのか、一目でわかるよう、通常の白色と色付けしたものとを使い分ける工夫をされていました。

高価な最新機械を導入することで作業効率は上がりますが、**工夫を凝らすことで作業段階を明確にし、その効率を上げる**ことは簡単なようで大変難しいことだと思います。こういった小さな工夫に社員の皆様が、毎日少しでも良いものを作ろうとされている感じが感じられました。

工場見学は毎回同じ内容ではなく、案内される時間と作業のタイミングで場所が少しずつ違うそうです。興味を持たれた方は参加されることをお勧めします。